

11/17(月)の深夜～18(火)の明け方 が極大日

～ **しし座流星群** ☆≡ 今年の活動は、控えめ？ の予想です。～

毎年、11月中旬には、しし座流星群がやって来ます。流星の流れる数が一番多く極大となる日を「極大日」と言いますが、今年のしし座流星群の極大は、11/17(月)の深夜から18(火)の朝方までの予想です。活動期は11/6～30とされていますが、極大日の前後数日間は、活発に流れるので、**11/14(金)～20(木)の1週間くらいは楽しめます**。今年の出現数予想は、**1時間に10個程度と控えめ**ですが、この頃の月は、新月前の細い月で、月の出は朝4時過ぎのため、月明かりに邪魔をされないため観測日よりです。しかし、定期考査の初日でもあるので、試験勉強の息抜きに、暖かい格好をして、ベランダなどから夜空を見上げて下さい。流れ星が見られたらラッキー！テストで良いことが起こるかも？



【動画】しし座流星群
NHK アーカイブ
大出現！しし座流星群
https://www2.nhk.or.jp/archives/teve/745000200160_0000

☆≡ **9年後の「2034年」は、流星嵐**(りゅうせいあらし)の予想！！

しし座流星群は、過去に何回も、流星をたくさん降らせる「流星雨(りゅうせいいう)」や「流星嵐(りゅうせいあらし)」と呼ばれる現象を起こしています。

★流星群は、「**彗星がばらまいた塵**」の群れ？

流星群の正体は、彗星が軌道上にばらまいたチリ(数ミリ～数センチの岩石などの粒子)の集団がある場所を地球が通過する時、チリが地球の大気に飛び込み、高速で落下する際に、大気との摩擦で高温になり、光り輝く現象です。

★レモン彗星では、流星群は、生まれない？

流星群になるには、彗星の軌道と地球の軌道が交差する必要があるため、どんな彗星でも起こるわけではなく、先日のレモン彗星では起こりそうにありません。彗星の大きさは、数km～数十kmで、氷に塵(鉱物など)や二酸化炭素などのガスが混ざった状態の天体で、形はいびつなものが多く、イメージとしては「泥だらけの雪だるま」と表現されます。太陽に接近した時に熱であぶられて融け、ガスや塵が表面の割れ目から噴出して尾を作りながら、塵をばらまきます。上の写真は1986年にヨーロッパの探査機ジョットが撮影したハレー彗星の核です。表面は蒸発しなかった鉱物系物質が殻のようになって、内部の氷を覆い、想像よりも黒かったそうです。



★しし座流星群は、テンペル・タットル彗星が母天体

しし座流星群を作った彗星(母天体)はテンペル・タットル彗星です。公転周期は約33年で、太陽に近づいた際に大量の塵を軌道上にばらまき、それが徐々に広がっていくことを繰り返しています。そしてこの塵の集団も、彗星と同じように、太陽を公転し、約33年ごとにやって来て、地球がその塵の濃い場所を通過します。

☆≡ **33年ごとに、流星嵐が、発生！！ ～1時間に1,000個！！～**

確かに、しし座流星群は、古文書などに記録が残っているものだけで、1799年、1833年、1866年、1966年に、流星嵐が観察されています。最近では、1999年、2001年、2002年に、流星嵐が観測され、2001年11月18日深夜～19日未明には、日本でも1時間あたり1000個を超える流星が観察されました。東京は雲が多かったですが、それでも時おり雲間から明るい流れ星を見ることができました。**長野県の野辺山では、1分間で30個以上が観測できたとの報告がありました**。母天体のテンペル・タットル彗星は、2031年にやって来ます。そして、次回の流星嵐の発生予想は、**2034年～2037年**です。今から9年後が楽しみです。

詳しい説明知りたい方は、下のHPにアクセスしてみよう！

■国立天文台 HP ①「流星群とは」 <https://www.nao.ac.jp/astro/basic/meteor-shower.html>

②「彗星とはどのような天体か」 <https://www.nao.ac.jp/astro/basic/comet.html>

①



②

